

■素月 俳人。加舎白雄の門下だった夫と死別後、小林一茶・松窓乙二と句を交わした。

そげつ

大貳政治批判1759 = 生。陸奥国三春の人。旧姓熊耳。

大岡忠光没・1760 = 1歳：

久留米藩工事1768 = 9歳：

田沼意次老中1772 = 13歳：

・・・・1777 = 18歳：

三春常磐生れで秋田侯に仕えていた今泉与右衛門の妻となる。

田沼意次失脚1786 = 27歳：

夫が春秋庵加舎白雄の門に入って俳句を学び、恒丸と号したのに従い、白雄門で句作をする。

松平定信引退1793 = 34歳：夫恒丸が家督を嗣子に譲って江戸に出るのに従い、浅草川のほとりに住み、

写楽・・・・1795 = 36歳：

以後、ともに多くの俳人と交わる。

いざノ来航・1804 = 45歳：

いざノ報復・1806 = 47歳：火災にあい、下総佐原に移住。

・・・・1810 = 51歳：*夫恒丸の死去後、墓参にきた小林一茶が訪れ、この時"時雨や主が居たら初時雨"と詠み、一茶はこれに
えて、"笹鳴も手持ぶたさの垣根哉""大方の月をもめでし仏かた"と詠んだ。

浮世床・・・・1813 = 54歳：

黒住教・・・・1814 = 55歳：*京都に旅立ち、嵯峨の誡拙禅師について得度剃髪(これ以降、素月尼と名のる)。

西国諸国に遊び、長崎まで漂泊して各地の俳人たちと交わる。

伊能測量終・1816 = 57歳：佐原に帰って亡夫の七回忌を営んだ後、

水野忠成老中1818 = 59歳：*箱館の松窓乙二を慕ってそのもとをたずねた。素月の俳書「蚤のあと」には2人の連句が見える。"死残る翁
を花にたずね来て"(乙二)に対して、"春の寒さに裏つくる"(素月)とつけている。乙二のもとで薪水の労
をとって暮していたが、

群書類従完結1819 = 60歳：*病気になり、逆に乙二の厄介になりながら、没した。

辞世の句"白露や存分置し夢のうち"。三回忌に、俳友たちによって「蚤のあと」2巻が上梓された。